

市長と話そう会（武雄市連合 PTA）

日 時：令和 8 年 7 月 10 日（金）

19：00～20：30

場 所：武雄中学校 C ルーム

参加者：武雄市連合 PTA 及び単 P 会長
など 16 名



市民のみなさまと市長が直接語り合う「市長と話そう会」第 43 回は、「武雄市連合 PTA 及び単 P 会長」のみなさまと、これからの青少年育成と PTA の役割や生成 AI による校務 DX について意見交換しました。以下抜粋して掲載します。

【市長】

教育の予算を作る権限は市長にあるが、現場での運用は教育委員会が担っており、自分自身も保護者と同じような立場で教育に関わっている。本日は一方的な講話ではなく、皆さんとの対話を意識し、各学校の PTA に持ち帰って話し合えるようなきっかけとなる場にしたい。

テーマ①：これからの青少年育成と PTA の役割

【市長】

- ・ かつての寺子屋や、明治時代の旧制武雄女学校設立時に複数の町村が共同で寄付を集めた歴史があるように、学校はもともと地域の熱意で支えられてきた。戦後、学校教育と家庭・地域が分業化される中で、両者を繋ぎ止めてきたのが PTA である。
- ・ 現在、学校単独で子どもを育てるのは限界にきている。PTA は学校と地域の上に立ち、両者を繋ぐ「ハブ（繋ぎ役）」としての役割が求められているのではないかと。
- ・ PTA に新しい負担を求めるものではない。すでに地域で行われているお祭りや浮立などの伝統芸能などの地域行事に学校や子どもたちをどう絡めるかを企画する「プロデューサー」のような立ち位置で関わってほしい。

【参加者】

- ・ 小規模校では地域行事への資金面での苦労がある。
- ・ モグラ打ちや鬼火焚きなどの伝統行事は、少子化や指導者不足により単独の地区での存続が危ぶまれている。

【市長】

- ・ PTA 単独ではなく、地域全体を巻き込んだ事業であれば教育関連の予算が活用できる可能性がある。まずは「青少年町民会議」などの地域団体に相談し、協力体制を作っていくては。
- ・ 複数地区での合同開催や、老人クラブ・自治公民館・消防団を巻き込んだ地域行事として再構築したり、学校の授業（総合的な学習の時間）に組み込む事例もある。PTA だけで抱え込まず、公民館や老人会などと協力する環境づくりを進めてみてはどうか。

テーマ②：生成 AI による校務 DX について

【市長】

- ・武雄市の ICT 教育の根本は「もっと、こどもまんなか」であり、AI やデジタル導入が目的ではなく、この方針を実現するための手段である。
- ・先生の負担軽減のための生成 AI の実践事例として、個人懇談の日程調整など、これまで数日かかっていた複雑な事務作業を、生成 AI を活用して数分で完了させることが可能になり、削減された時間は、先生が子どもと直接向き合う時間や教材研究に充てられている。
- ・子どもたちに対しては、AI を「答えを出す機械」としてではなく、「自分の頭で考えるための助手（壁打ち相手）」として活用させている。

※教育委員会から、夏休みの生活のきまりなどの文書を AI に読み込ませ、対象学年に合わせたスライド資料を数分で自動生成するデモンストレーションを実施。

【参加者】

- ・子どもが AI に答えを丸投げし、自分で考える力を失ってしまうのではないかという不安がある。

【教育委員会】

- ・そうしたリスクがあるからこそ、遠ざけるのではなく「正しい使い方（アイデアを出させ、自分で考え、アドバイスをもらう）」を学校で指導する必要があると考えている。
- ・AI を使いこなすには、自分が思った通りに指示を出せる「語彙力」や「言語能力」、そして「対話力」が不可欠となる。子どもたちの言語能力を育てる一番のベースは家庭での「対話」であるため、各家庭で子どもとたくさんの会話をしてほしい。

【市長】

- ・これからの時代は AI から答えを見つける以上に、「答えをどう引き出していくか」「どれだけ良い質問ができるか」という『問いを立てる力』が非常に重要になる。

【参加者】

- ・導入の目的や中身について保護者へ十分に説明できていない部分もあるため、今後は学校と保護者がしっかりと情報を共有し、対話していく必要があると感じた。